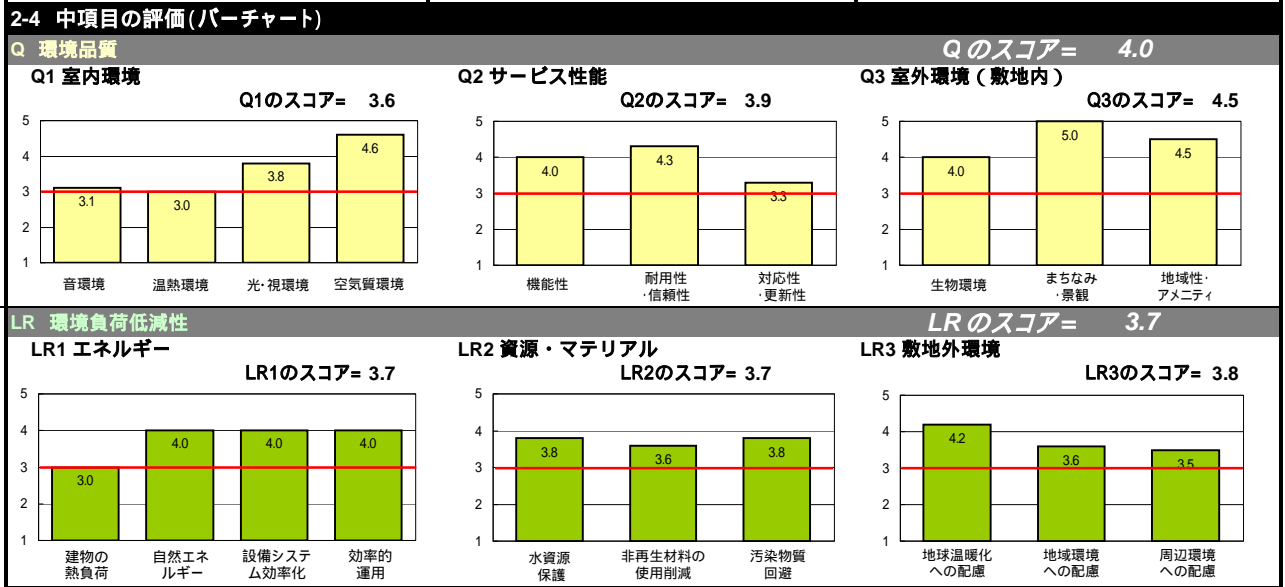
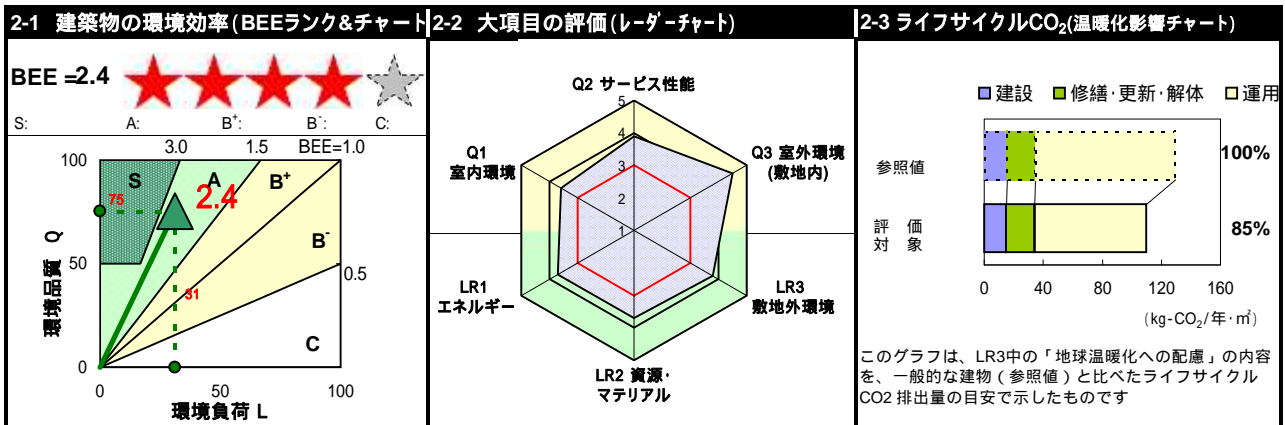


# CASBEE 新築 [簡易版]

# 評価結果

使用評価マニュアル: CASBEE-新築 (簡易版) 2008年版 使用評価ソフト: CASBEE-NCb\_2008(v.3.2)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	平塚市庁舎・国庁舎	階数	地上8F/地下2F
建設地	神奈川県平塚市浅間町168番1	構造	SRC造
用途地域	第1種住居地域・準防火地域	平均居住人員	1,300 人
気候区分	地域区分	年間使用時間	2,205 時間/年
建物用途	事務所, 工場,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2015年9月 予定	評価の実施日	2011年2月18日
敷地面積	16,411 m <sup>2</sup>	作成者	(株)佐藤総合計画
建築面積	7,426 m <sup>2</sup>	確認日	2011年2月20日
延床面積	36,421 m <sup>2</sup>	確認者	(株)佐藤総合計画



3 設計上の配慮事項		
総合	その他	
<p>「公園のような庁舎」を実現するために以下の5つのコンセプトにより計画を行う。</p> <p>1.敷地内緑化 2.圧迫感のないファサード 3.環境配慮 4.市民に開かれた開放空間 5.市民サービスの向上</p>	<p>現庁舎の外壁のモニュメントを記憶の継承として敷地内に再設置する。市民憲章、記念碑などのモニュメントを移設保存を行う。</p>	
<p><b>Q1 室内環境</b></p> <p>庁舎はオープンフロアが主体のため、音環境については特にプライバシーへの配慮が必要な個室について配慮を行う。上下階の遮音については格段の配慮を行う。建物四方に窓を設け自然採光を活用する。</p>	<p><b>Q2 サービス性能</b></p> <p>防災拠点としての庁舎として免震構造を採用する。バリアフリーについても最高レベルの配慮を行う。全階にコミュニティラウンジを設け、コミュニケーションやリフレッシュスペースとして活用する。</p>	<p><b>Q3 室外環境 (敷地内)</b></p> <p>市の木である既存のくすのきの並木を生かし、緑の環境を踏襲する。既存庁舎のバルコニーのあるデザインイメージを継承し、市民に親しまれ、まちなみのシンボルとして環境に調和するデザインをする。</p>
<p><b>LR1 エネルギー</b></p> <p>省エネルギーや自然エネルギーの活用を努める。システム効率の評価を行い、省エネルギー効果を検証し運用に活かしていく。</p>	<p><b>LR2 資源・マテリアル</b></p> <p>化学物質を排出しない材料を採用している。建築躯体や内装材にリサイクル材を活用する。</p>	<p><b>LR3 敷地外環境</b></p> <p>温熱環境に対する配慮として、敷地内の緑化に努めることと、建物からの排出エネルギーを最小限に押さえる。駐車場・駐輪場を十分に設け、交通負荷の抑制に努める。</p>

CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
**Q:** Quality (建築物の環境品質), **L:** Load (建築物の環境負荷), **LR:** Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), **BEE:** Building Environmental Efficiency (建築物の環境効率)  
 「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される  
 LCCO<sub>2</sub>の算定条件等については、「LCCO<sub>2</sub>算定条件シート」を参照されたい